

琉球大学学術リポジトリ

ザンビア地方部における小児疾患ケアの公的保健医療施設の利用に対する供給側障壁—保健施設センサスデータと世帯調査データの連結による横断研究—

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学 公開日: 2022-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): physical access, human resources, equipment, fever, diarrhea, under-five childre, Zambia 作成者: 持田, 敬司 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002018083

(様式第5-2号)

2022年 1月 19 日

琉球大学大学院

保健学研究科後期課程委員会 殿

論文審査委員

主査 氏名 中尾 浩史  印


副査 氏名 福島 卓也  印

副査 氏名 中村 幸志  印

学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告
します。

記

申請者	専攻名 保健学	氏名 持田 敬司	学籍番号 
指導教員名	小林 潤		
成績評価	学位論文 合格 不合格	最終試験 合格 不合格	
論文題目	Supply-Side Barriers to the Use of Public Healthcare Facilities for Childhood Illness Care in Rural Zambia: A Cross-Sectional Study Linking Data from a Healthcare Facility Census to a Household Survey		
審査要旨（2000字以内） サハラ以南のアフリカの国々では依然として子供の死亡率は高いままであり、マラリアと下痢がその死亡の主な原因となっている。この死亡率は患者が医療施設を利用し、適時に適切な治療を受ければ低減することは明らかであるが、様々な要因が医療施設の利用を妨げている。発展途上国で行われた多くの先行研究では供給・需要側要因の情報は別々に収集・分析されていることが多く、双方の要因を国規模で調査している論文は非常に限定されている。本研究では、国規模にて両要因の情報が得られるザンビアを対象とし、供給側・需要側要因との関連性を分析している。発熱を症状とした死因の7割がマラリアであること、ザンビア共和国が発熱または下痢症が認められた場合保険医療施設にて適切なケアを受けるように指導していることから、需要側としてデータ収集日から過去2週間以内に発熱または下痢症があったと報告された地方部に暮らす5歳未満児(n=6,646)を選択し、供給側要因と需要側要因の関連性について二項分布と一般化線形混合モデルを用いて解析			

審査要旨

した。発熱グループ・下痢症グループのいずれにおいても、小児の年齢や母親の学歴などの個人・世帯特性という需要側要因を制御しても施設までの距離が 10 km を超えている小児は 5 km 未満のものとは比べて有意に施設を利用しない傾向であり、また、保健人材と医療機材の配置状況は施設の利用との関連性は認められなかったことなどを明らかにした。本研究の結果は公的医療施設へのアクセスを拡大するというザンビアの国家戦略を支持するものであり、医療施設から遠い村へのアクセスの改善を優先することの重要性を述べている。

本審査では、本研究の背景や結果、考察に関するプレゼンテーションに加えて、予備審査において指摘された点（研究参加者と除外者[保健ポストと地方保健センター以外の施設・サービスを利用した者]の比較、出産順位（子供の数）の与える影響、発熱グループと下痢症グループに分けていたのを発熱のみ・下痢のみ・両症状の 3 グループに変更・再分析の結果など）が説明された。質疑応答ではザンビア共和国における医療機関や人々の置かれている状況などプレゼンテーションにおいて欠けていた基礎的な情報・現状や統計解析、さらには本研究の限界などについて様々な質疑がされたが、申請者は質問の意味を的確に捉え、自分の考えに基づいて適切な返答を行うことができた。

以上のように今回の審査を通じて、本学位論文の内容は保健学博士論文として適切であり、申請者は研究内容を十分理解し質疑応答をすることができており、主査・副査から出された修正事項についても正しく対応することができていることを確認した。また、本学位論文は国際英文誌である *Int. J. Environ. Res. Public Health* (2021, 18, 5409. doi: 10.3390/ijerph18105409) に掲載された学術論文を基に作成していることから、「学位論文」、「学力確認」とも合格とした。